

地域包括医療実習 I

科目責任者 金子 堅太郎（教育支援センター 地域医療教育部門）

I. 前 文

わが国では、2025年までに地域完結型医療、地域包括ケアシステムが実現される計画が立てられた。その要となるプライマリヘルスケア（primary health care）は、地域に根ざした包括的かつ継続的医療と定義される。疾患の治療だけでなく予防にも重点がおかれ、医療・保健・福祉・介護のチームワークが大切である。将来、地域医療を担っていく医学部生には、低学年の早い時期から地域におけるプライマリヘルスケアを体験し、医療・保健・福祉・介護の活動とそのネットワークの状況などを学ぶことが望まれる。第1学年では、主に診療所実習を通して地域医療におけるコミュニケーションの大切さを学ぶ。

なお、本実習は、地域枠入学者には必須である。また、1～4年まで継続的に実施し、ステップアップしていくことが好ましいが、自由選択者は1年間のみ履修も可能である。

II. 受入可能人数

地域枠学生・地域医療に興味を持つ学生の場合、人数は制限しない。

III. 担当教員

特任教授 千種 雄一（教育支援センター 地域医療教育部門）
 准教授 稲葉 未知世（教育支援センター 地域医療教育部門）
 准教授 橋本 充代（教育支援センター 地域医療教育部門）
 講師 上杉 奈々（教育支援センター 地域医療教育部門）
 講師 金子 堅太郎（教育支援センター 地域医療教育部門）
 学外指導者 種市 ひろみ（順天堂大学 医療看護学部・大学院医療看護学研究科 教授）
 岩佐 景一郎（栃木県保健福祉部 保健医療監）
 診療所等の医療機関の院長・医師・職員

IV. 学習内容

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	5	17	水	5	自己紹介 全体オリエンテーション	地域医療教育部門教員
2		22	月	6	バイタルサインの測り方	種市 ひろみ 地域医療教育部門教員
3		24	水	6	調整中	地域医療教育部門教員
4	6	2	金	6	調整中	地域医療教育部門教員
5		14	水	6	地域医療に関する対話集会	岩佐 景一郎
6		16	金	6	直前オリエンテーション	金子 堅太郎
7	7-8				診療所実習（見学型）	各診療所 医師・職員
8	9	6	水	5-6	実習報告会準備（3年と合同）	地域医療教育部門教員
9		13	水	5-7	実習報告会（3年と合同）	地域医療教育部門教員

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
10	9	27	水	5	2年との合同講義	中野謙作先生 一般社団法人 栃木県若年者 支援機構 代表理事
11	11	25	土	半日	地域医療包括セミナー（1～4年合同）	ラリエヴァーガメッド先生 (足利赤十字病院 看護部) ミヨー パイン ソー先生 (特別養護老人ホーム にこんきつれ荘 職員)
12	1	16	火	4	1年間の反省会	地域医療教育部門教員

日程表の空欄や未定は予定が決まり次第、LMSで受講生には連絡する。また、日程表に記してある予定以外にも6・7時限・土曜・日曜・祝日を利用して実習が入る場合があるので、その場合はLMSで連絡する。必ずLMSで連絡が受け取れるようにしておくこと。

学外の診療所が実習場所となるため、誰とでも礼儀正しくコミュニケーションを取れることを目指し、日頃より『周囲から信頼される医療者』にふさわしい人格と生活習慣および倫理観を身につけるように努める。実習中は礼儀正しく挨拶・自己紹介をし、不注意な言動や行動は慎むことが肝要である。また実習では、患者のプライバシーに関わる情報に触れることになるが、たとえ匿名であってもレポートや報告書や報告会以外では興味本位に仲間内で話したりすることは厳に慎むようにする。

また、必須のカリキュラム以外に日頃から積極的に病院実習やボランティア活動を行う者は本実習扱いとするので、レポート等で申告することにより成績に反映される。

V. 学修の到達目標

- 1) 栃木県の地域医療について説明できる。
- 2) 地域医療マインドを学び、説明できる。
- 3) コミュニケーションのとり方、バイタルサインを測定することができる。
- 4) 地域の診療所にてプライマリ・ケアを体験する。
- 5) 地域における診療所の役割を学び、説明できる。

VI. 成績評価の方法・基準

出席状況と実習態度の評価（各診療所からの評価を含む）及びレポートの評価を参考とする。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

地域包括医療実習 I テキスト

その他、必要に応じ、その都度紹介する。

参考図書：「格差時代の医療と社会的処方 病院の入り口に立てない人々を支えるSDH（健康の社会的決定要因）の視点」武田裕子 日本看護協会出版

「神様のカルテ」「神様のカルテ2」夏川草介 小学館

「がんばらない」「あきらめない」鎌田實 集英社

「寄りそ医 支えあう住民と医師の物語」中村伸一 KADOKAWAメディアファクトリー

「地域医療はおもしろい!!-地域を癒す48の取材記-」北村聖 ライフメディコム

「在宅看護論 地域医療を支えるケア」メディカ出版社

VIII. 質問への対応方法

科目責任者：金子堅太郎（commed@dokkyomed.ac.jp／PHS8108／内線2009）が窓口になり対応する。基礎医学棟・

2階205室（金子）への来室は、原則として平日のオフィスアワー（9：00～17：00）とする。

- IX. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間 *（ ）内はそれに必要な時間の目安
 事前学習：実習の各毎にテキストの該当部分を読んでくること（30分）。
 事後学習：実習内容を振り返り，不明な点などを調べたりしておくこと（30分）。

X. コアカリ記号・番号

- A-7-1) 地域医療への貢献
 G-4-3) 地域医療実習

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

レポートを添削の上，返却する。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎